

シンポジウム『女性と年金』 ～女性活躍と出産育児配慮の在り方を求めて～

日時：平成 27 年 11 月 26 日 (木) 14:00～17:00
会場：東海大学校友会館

開会のあいさつ

山口 修 (帝京大学経済学部教授・日本年金学会代表幹事)

本日はお足元の悪い中、このシンポジウムに足を運んでいただきましてありがとうございます。本日のテーマですが、「『女性と年金』～女性活躍と出産育児配慮の在り方を求めて～」ということで、今後の年金改革の中でもとりわけ重要な問題について、この分野で著名な先生方に今日はご出席いただきまして、論点の提示やパネルディスカッションによる議論の深化をしていただく予定になっています。



公的年金制度における女性の位置付けは、平均的な女性の働き方、就業状況、あるいは婚姻状況が変化していくとともに徐々に変わってきたのではないかと考えています。わが国では 1970 年代以降、働く女性が大変増加しました。加えて、生涯独身で暮らす女性、あるいは配偶者と離別する女性も増加してきて、いわゆる「女性の貧困」という問題が広く認識されるようになってきています。このような社会変化に対して、現行の公的年金の仕組みが果たして十分に対応できているのかどうか問題です。

また、近年多くの国において少子化の傾向が顕著ですが、そういった中で、女性の出産育児こそが年金制度を含む社会システム全般を将来に向かって持続させていく最も重要な鍵になると言えると思います。しかし一方で、出産育児によって女性の年収が低下し、結果として女性自身の年金も減少してしまうといった問題も出てきます。今後、女性が生き生きと活躍し、不安のない老後生活を営むために、年金制度の側から出産育児などに対する配慮をいかに組み込んでいくかということが今問われていると思います。

本日は、先進諸国の事例なども参考にしつつ、法律面、あるいは年金財政面からの掘り下げも含めて、多角的な観点から議論を深めていただけるのではないかと大いに期待しているところです。

最後に、このシンポジウム開催に当たっては科学研究助成金のご支援を受けていることを付け加えさせていただきます。私からのごあいさつとさせていただきます。